

## 【補足説明】

成績評価の厳格化，評価の見える化  
に向けた全学的な取り組みと  
I R活動の推進



# 実りあるYNU学士課程教育をめざして

- 多様な価値観を理解し，高い倫理観を養い，総合的・創造的な能力を身につけるため，**先進的な研究成果を取り入れた教育**を実施します。
- 学際的な能力を身につけ広い視野を持った人材を育てるため，主専攻に加え，**課題探求能力の育成に対応する副専攻プログラム**などを充実させます。
- 課題を探求し，柔軟に思考し，独創的に解決する能力を育むため，**対話型・学生参加型の授業**を計画的かつ効果的に実施します。
- 自らの学びが世界に開かれたものとなるよう，**高いコミュニケーション能力と国際性を育成する教育**を全学的に展開します。
- 学生の資質に応じた自己実現を支援するため，**職業観，人生観，社会観の醸成を図るキャリア教育**を入学時から実施します。

# 学士力・就業力の可視化とIR活動

## 現況は・・・

- 各部局で学生を対象として様々な調査を行っているが、体系的な分析と分析をもとにした提言の発信には至っていない。
- 平成26年度大学教育再生加速プログラム（テーマⅡ：学修成果の可視化）に採択され、**学士力の可視化、就業力の可視化に取り組んでいる中、教学IR体制を整備し、データ整理を行うことが不可欠な状況にある。**
- 図書文献情報（図書館）、研究IR（研究開発推進機構）の分析と体制整備が先行している。

# I R活動の推進に向けて

## 学内にある様々なデータを活用して分析する

直接評価データ：学生の成績，GPA，履修状況

間接評価データ：大学IRコンソーシアムの学生調査データ，  
就業力アセスメント（PROG），卒業時アンケート，  
各部局での調査，学生による授業アンケート，  
教養教育アンケート，進路調査票 等

## I R活動を推進するためセンター一丸となって取り組む

（目的）教学改革支援，内部質保証のチェック機能，  
学生支援，学修成果の可視化支援

**分析をもとにした提案（メッセージ）の発信が今後  
重要なミッション**

— 入口から出口まで質保証を伴った大学教育を実現するためのIR（分析・評価） —

## 質保証：大学教育の課題

- ✓ 入口の課題：主体的な学びの醸成
- ✓ 出口の課題：就業力（特に対人基礎力）の強化

## 質保証：社会からの要請

- ✓ 就業力：主体的に考え動ける人材
- ✓ グローバル人材：主体的な状況適応力

## 学生IRにより

- ① 学士力・就業力を可視化
- ② 学修成果を検証
- ③ PDCAサイクルの構築

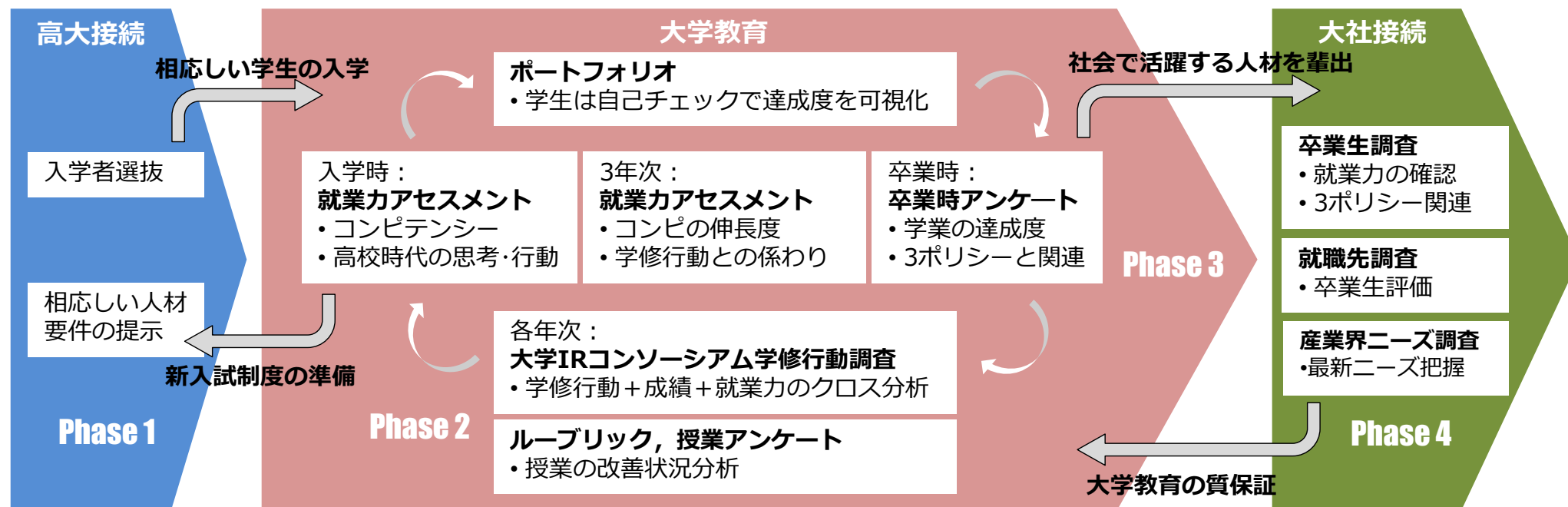
## 学士力の分析指標

- アドミッション・ポリシー
- カリキュラム・ポリシー
- ディプロマ・ポリシー

## 就業力の分析指標

- 学ぶ目的と将来が繋がっているか
- 他人と係わる力が伸びているか
- 主体的に思考し、行動できているか

## 入学者選抜から卒業後まで、学生にフォーカスしたIR



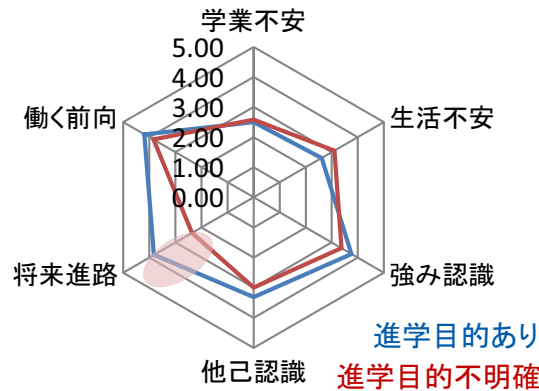
# 学生IRがめざすこと：大学教育の質保証の課題

— キャリア教育の再体系化，産業界ニーズ事業，AP事業からわかったこと —

## 入口の課題：主体的な学びの姿勢の醸成

- ✓ 入学段階で学生の意欲が2・6・2に分かれている
- ✓ 進学目的が明確な学生は将来の進路も明確。学ぶ目的と将来をつなげて考えていると推測

入学段階の意識：進学目的との関係

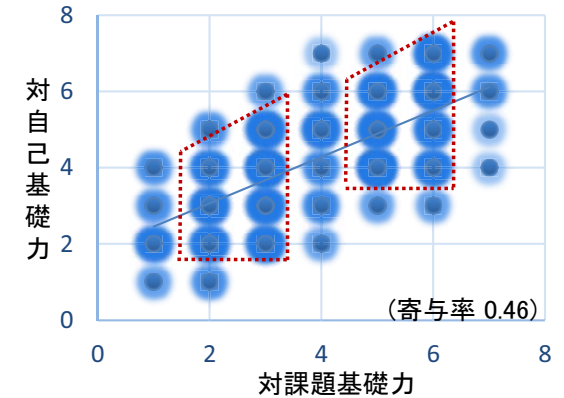


↓  
**将来の進路と学業の係わり**  
 を認識させることで，主体的な学びに誘う

## 出口の課題：就業力（特に対人基礎力）の強化

- ✓ 学年進行に伴い，コンピテンシーを伸ばす学生，伸び悩む学生に二極化
- ✓ 対人基礎力，對自己基礎力で差が目立ち，自己認識と他人と係わる力がたりないことが二極化要因

對自己/対課題基礎力の相関



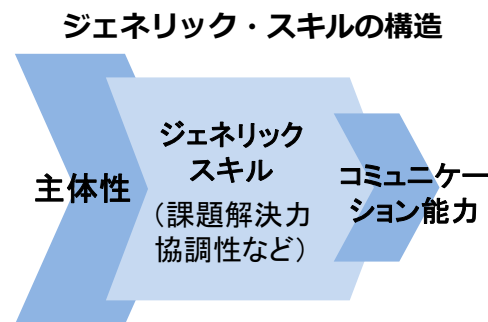
↓  
 アクティブ・ラーニングにより**対人基礎力を強化**しコンピテンシーを伸ばす

## 学生IRにより分析・対策立案 + (実行) + 効果検証・改善策立案

### 産業界ニーズ：主体的に考え，行動できる人材

- ✓ 主体性が原動力となってジェネリック・スキル群を発動させ，コミュニケーション能力により周囲に働きかけられる
- ✓ 若手社員は「主体性」をイメージできない

↓  
 学業を通じて「**主体性**」を獲得させ，社会で活躍できる人材を輩出する

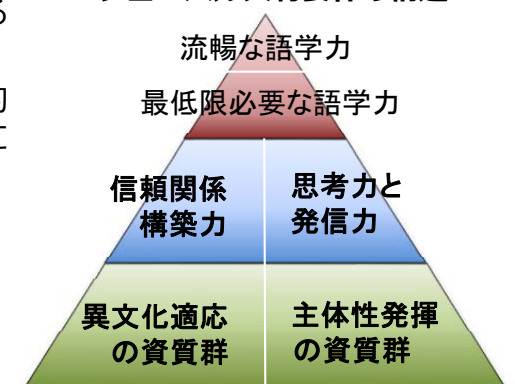


### グローバル人材ニーズ：主体的な状況適応力

- ✓ 日本中心の発想から脱却し，地球規模で思考し行動できる人材の育成
- ✓ 英語力よりも，教養や論理的思考力の強化，異文化状況に主体的に適応する力

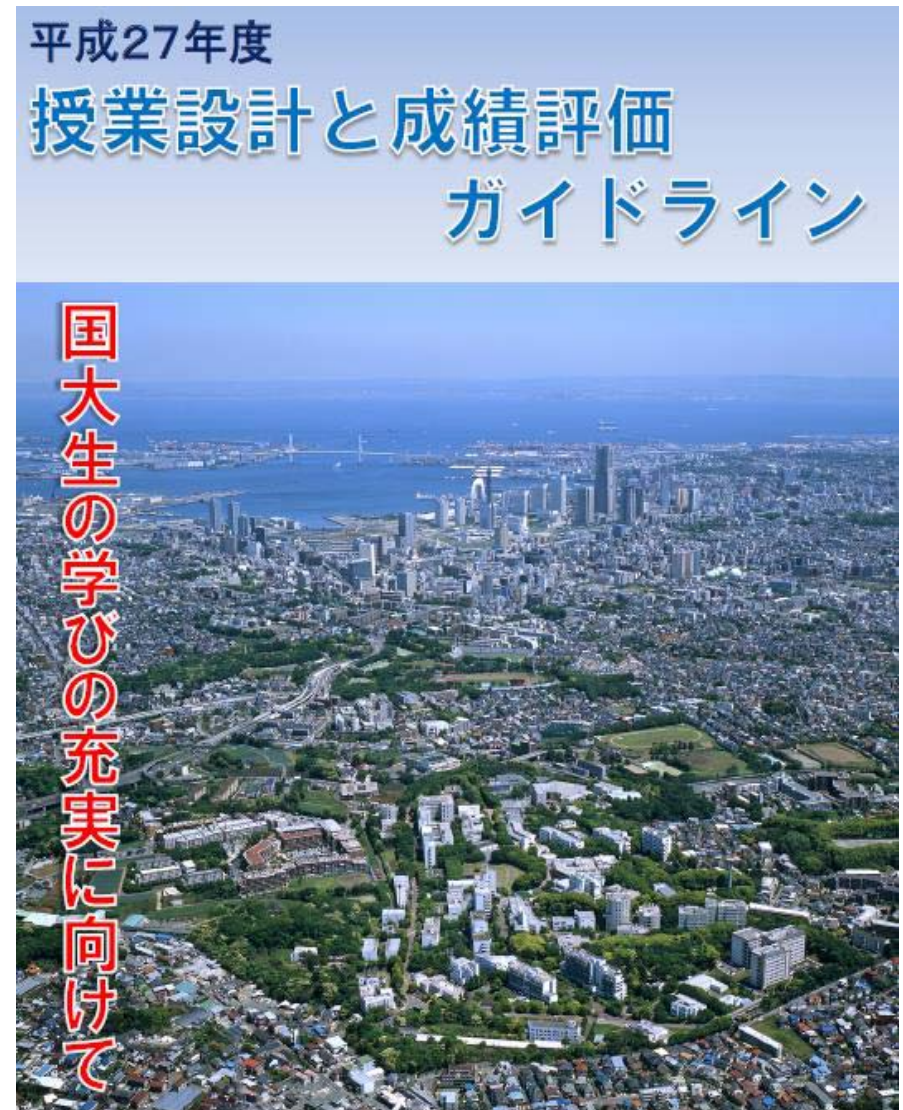
↓  
 学業を通じて**異文化に触れる機会**を増やし，グローバル環境で主体的に行動できる人材を輩出する

グローバル人材要件の構造



# 「授業設計と成績評価ガイドライン」

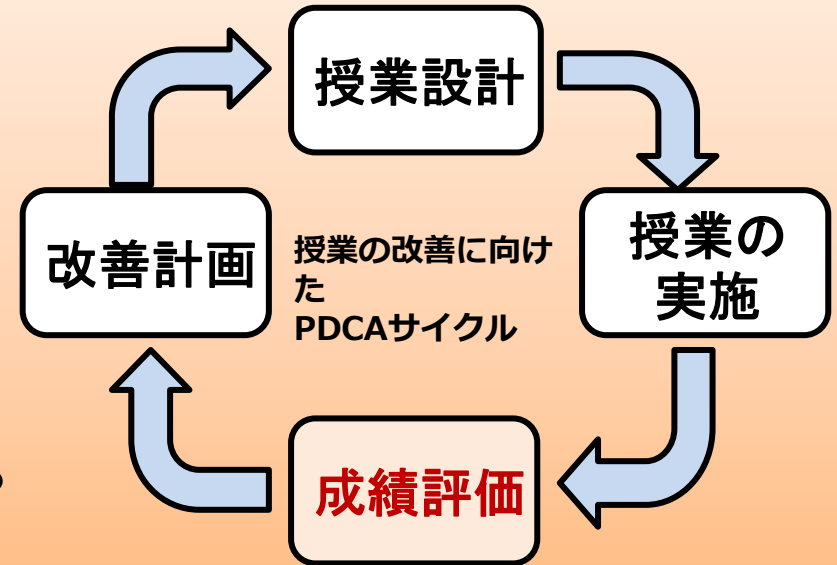
- 教員間に成績評価の基準にばらつきがあることが、教務厚生部会において問題に…
- ガイドラインの策定・導入を通して学生の学びの充実につなげ、学生の学修成果を全学一体で高める
- 教学マネジメントチーム会議にて導入を決定



# ガイドラインの要点

## ● 授業設計の考え方を周知

→ 授業改善に向けたPDCAサイクルを意識して、より質の高い授業へ工夫と改善を重ねていく。



## ● 「成績評価の基準表」を全学で導入

秀	優	良	可	不可
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成できていない



# ガイドラインの要点

## ● 授業ごとに「授業別ルーブリック」を導入

- 授業担当教員がルーブリックを作成し、電子シラバス上で学生に公表
- 学生と教員間で成績評価の基準を共有
- 授業科目（内容、評価基準・項目）の可視化

## ● 電子シラバスを改修

- 授業別ルーブリックの作成機能を追加
- 授業外に学修すべき内容を学生に明示
- 学生に「成績評価の基準表」を公開

# 授業別ルーブリックの作成

- 授業科目の可視化へ、成績評価の改善と評価の見える化を図る。
- 成績評価の基準を学生に明確にすることにより、授業時間内外で主体的な学びを促す。
- ルーブリックを教員が手軽に作成し、授業改善に活用できるよう、作成マニュアルを用意

授業別 教員向け ルーブリック作成マニュアル

気軽にできる! まずはトライ!

▼ 授業別ルーブリックの作成の流れ

	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる 履修目標	やや努力を要する	努力を要する 到達目標	相当の努力を要する
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					

平成27年12月  
横浜国立大学 大学教育総合センター FD推進部  
授業設計と成績評価ガイドライン、授業別ルーブリック専用問い合わせ窓口:  
yec-guideline@ml.ynu.ac.jp

YNU 横浜国立大学

# 教育課程の体系化へ

- 3ポリシー（AP・CP・DP）の見直し
- 科目ナンバリング導入＋カリキュラムツリーの見直し

1000 番台	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎初年次・導入科目</li> <li>◎学部学生として、また社会の一員として基本的な知識と教養、英語力を身に付ける</li> </ul>
2000 番台	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎基礎／専門基礎科目</li> <li>◎学部教育における基礎知識や専門基礎力、発想力、語学力を身に付ける</li> </ul>
3000 番台	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎専門科目</li> <li>◎学部教育で展開する専門知識と創造力、幅広い教養、表現力を身に付ける</li> </ul>
4000 番台	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎博士課程前期／専門職学位課程基礎科目</li> <li>◎大学院生として必要な知識とプロフェッション意識を身に付ける</li> </ul>
5000 番台	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎博士課程前期／専門職学位課程専門科目</li> <li>◎専門分野及び関連する他の分野における知識と課題を発見する能力、専門分野における先端的事象について調査・研究を遂行する能力を身に付ける</li> </ul>
6000 番台	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎博士課程後期専門科目</li> <li>◎専門分野において国際的に通用する水準で自立して研究を遂行し、その成果を世界の舞台で発表・発信する力、先端的または最新の学理について国際的に通用する水準の知識を身に付ける</li> </ul>
9000 番台	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎海外留学や語学検定など、放送大学科目等</li> </ul>